

ALTとのTeam Teaching

小学校外国語活動・外国語科講座
補足説明より抜粋

福島県教育センター

ALTとのTeam Teaching

ALTと共に行う授業では、英語を使用したゲームなどと安易に考えず、児童が単元や本時の目標を達成できるように計画された活動をALTの協力を得て行うことが大切である。

指導者が2人いる利点

- 1 児童の学習を分担して見取り、支援することができる。
- 2 英語のやり取りのモデルを見せることができる。

ALTとのTeam Teaching

ALT(T2)ができること

- 1 英語使用のモデルをJTEまたは児童に示すことができる。
- 2 海外の文化を具体的に紹介することができる。
- 3 ネイティブとして英語でコミュニケーションを図る相手となることができる。
- 4 児童とJTEの英語使用について
 - ・ コミュニケーション成立の判断をすることができる。
 - ・ 共通している間違いをJTEまたは児童に指摘することができる。

ALTとのTeam Teaching

JTE(TI)ができること

1 児童をより理解しているため

- ・ 学習指導だけでなく生活指導も行うことができる。
- ・ 他教科との関連や興味・関心について児童の実態に即した題材を提供することができる。

2 学習指導要領に基づいて、外国語活動や外国語科で目指すべき学習を授業として計画することができる。

3 英語学習者としての見本を示すことができる。

ALTとのTeam Teaching

JTEの事前準備

1 単元や本時の目標から本時の活動を計画する。

例 1 Small talk → 2 Let's Chant → 3 言語活動 →
4 Let's Listen → 5 言語活動 → 6 Let's Try →
7 言語活動 → 8 振り返り

2 各活動の役割を計画する。

例 Small TalkではデモンストレーションをALTに依頼

言語活動ではコミュニケーションの相手をALTに依頼

Let's ListenとLet's Tryでは児童とのやり取りをALTに依頼

ALTとのTeam Teaching

3 ALTに役割と準備を伝える

例 Small Talkで行きたい国とその理由について、すでに学習している表現を使用してデモンストレーションを見せてほしい。デモンストレーションでの写真などを準備してほしい。

言語活動で児童とやり取りをしたり、児童にコメントしたりしてほしい。

JTEが使用する英語について間違いやよりより表現があれば授業後に教えてほしい。

ALTとのTeam Teaching

授業中

I JTEとALTとのリアルな対話を示す。

JTEとALTのやり取りを台本がある決まった型の対話にしないほうがよい。JTEが理解できないことをALTに質問したり、その場で関連する質問をしたりするなどリアルな対話を示すことで、コミュニケーションの仕方を学ばせる。

JTE: Sorry? I don't know the last word “アク…”

ALT: Aquarium?

JTE: Please repeat that slowly again.

ALT: Aquarium. It's like a fish zoo. You can see a lot of fish and sea animals there.

JTE: Aquarium… Thank you very much.

ALTとのTeam Teaching

ALTの発話に反応したり、さらに質問をしたりしながら、継続させるところを見童に見せる。

ALT: I went to an aquarium in Niigata.

JTE: Oh! you went to Niigata. What did you do there?

ALT: I enjoyed seeing fish and some sea animals.

JTE: What animal did you see?

ALT: A lot of penguins and some dolphins.

JTE: Sounds fun.

ALTとのTeam Teaching

授業中

2 ALTが児童に働きかけているときは、

- ・ 児童の理解の程度をJTEが把握し、児童が理解できていないと判断した場合は、児童に質問させたりALTに繰り返してもらおうよう促したりして児童を支援する。

JTE: Are you OK?

児童: No.

JTE: You can say "Please say that again."

児童: Please say that again.

- ・ ALTが児童に対して使用する英語を観察し、自分の指導に取り入れられるものを使ってみる。

ALTとのTeam Teaching

3 ALTに児童と対話してもらい、児童が実際に英語でコミュニケーションする機会を多く設ける。児童の活動を賞賛してもらったり、確認された間違いを指摘してもらったり、役立つ語彙や表現を紹介してもらうなどのフィードバックを提供してもらう。

称賛→全体的な称賛だけでなく、個人を褒めてもらうことも大切。

間違い→教師がすぐに正すのではなく、全体に問いかけて児童に解決させてみる。

語彙や表現→児童と一緒に学習するつもりで、黒板に板書し、ALTの後に続いて教師と児童でリピートする。

ALTとのTeam Teaching

4 学習者としてJTEが気づいたことを児童にも気づきを促す。

JTE: ALTの先生のredの発音に注意して聴いてみて。

(ALTの名前), please say “red” slowly.

ALT: Red.

JTE: どのように聞こえた? 「レッド」じゃないんだね。もう一回聞いてみよっか。(ALTの名前), Repeat again, please.

ALT: Red.

JTE: Class, repeat after (ALTの名前).

ALTとのTeam Teaching

5 言語活動の目的や英語を使用する必然性の役割をALTに果たしてもらおう。

言語活動に必要な目的や場面、状況等として、ALTに伝えたり、尋ねたりすることは、英語を使う必然性として児童にとって最も身近なものである。

例 ALTが自国と日本のクリスマスの違いに興味があり、みんなが何をして過ごしたのか知りたがっている。クリスマスの日のことをALTの先生に教えよう。

ALTがこの町のことをまだよく知らない。ALTに町のことを紹介し生活を楽しんでもらおう。

ALTとのTeam Teaching

授業後

児童の学習状況で気づいたことをJTEに伝えてもらう。

- ・ よくできていたこと
- ・ 共通した間違いなどさらに指導が必要なこと など

児童のワークシートに肯定的なコメントを書いてもらう。

授業中にJTEが使用した英語について訂正してもらったり、よりよい表現を提案してもらったりする。

授業の感想や今後の授業についての提案を伝えてもらう。